

れきはく NEWS

vol.42

2018. FEB

島根県立古代出雲歴史博物館の
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo



CONTENTS

- 2 企画展 隠岐の黒曜石
- 4 展覧会通信
- 5 平成30年度展覧会のご紹介
- 6 れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 れきはくごよみ



企画展

隠岐の 黒曜石

The Obsidian
from
OKI Islands





島 根半島の沖合に浮かぶ離島、隠岐。独自の地質と生態系を持つ隠岐は、中四国地方で唯一の黒曜石原産地として知られています。隠岐で採れる良質な黒曜石は、打ち欠くとナイフのように鋭く割れ、狩猟採集を^{なりわい}生業とした先史時代には狩りや加工用の道具として用いられました。その利用は、旧石器時代に始まり、先史時代を通じて途切れることなく使われました。

数万年にわたって人々を魅了し続けた隠岐の黒曜石。そこには、いったいどのような価値が秘められているのでしょうか。本展覧会では、先史人の残した石器製作の痕跡をたどり、隠岐に黒曜石を求めた人々の壮大な歴史を紹介します。

本展覧会は全ての資料の写真撮影が可能です。悠久の時代に触れた思い出を、ぜひ写真とともに残してください。



隠岐の巨大黒曜石
[八幡浩二氏蔵]

企画展

隠岐の黒曜石

会期

平成30年3月23日(金)~5月16日(水)

◎開館時間/9:00~18:00 ※3月23日は企画展開会式のため、特別展示室のみ10:00開場となります。
◎会期中の休館日/4月17日(火)

会場

島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室



3万年の時を超え、
紐解かれる黒曜石の歴史



隠岐の黒曜石は、約34,000年前の後期旧石器時代初頭から弥生時代にかけて、中国地方一帯で利用されました。本展覧会では、各地で出土した隠岐産黒曜石製の石器を一堂に展示し、3万年におよぶ黒曜石史のダイナミズムを紹介します。

隠岐産黒曜石石器群
[鳥取県埋蔵文化財センター蔵]
[倉吉博物館蔵]
[島根県教育委員会蔵]
[隠岐の島町教育委員会蔵]
[岡山大学蔵]
[岡山理科大学蔵]
[北広島町教育委員会蔵]

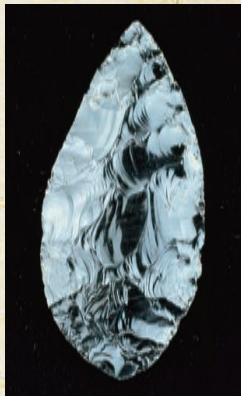


列島最大規模の 黒曜石展覧会

火山列島である日本は、全国各地で黒曜石が産出します。今回の展示では、隠岐産以外にも北海道白滝産、長野県和田峠産、東京都神津島産、佐賀県腰岳産、大分県姫島産など、日本を代表する黒曜石原産地の資料を一度に見ることができます。またオーストラリアやチリ・イースター島など世界の黒曜石も登場し、世界で花開いた黒曜石文化にも触れていただきます。



【重要文化財を含む】北海道白滝遺跡群出土石器
[遠軽町教育委員会蔵]



【重要文化財】
長野県神子柴遺跡出土尖頭器
[個人蔵/伊那市創造館保管]

チリ・イースター島
人物像他
[東京大学総合研究博物館蔵]



太古の迫力! 先史時代の狩りの風景

全長4m以上のナウマンゾウ（骨格標本）が、圧倒的なスケールで皆様をお迎えます。



ナウマンゾウ骨格標本
[岐阜県博物館蔵]

こちらもおすすめ! 企画展関連催事

関連講座

第1回

日本列島の 黒曜石原産地と隠岐

- 日時/3月24日(土)
13:30~15:00
- 講師/稲田 孝司氏
岡山大学名誉教授

第2回

黒曜石、4万年の旅

- 日時/4月7日(土)
13:30~15:00
- 講師/堤 隆氏
浅間縄文ミュージアム館長

第3回

隠岐産黒曜石利用から探る 現生人類の日本列島への 定着過程

- 日時/4月14日(土)
13:30~15:00
- 講師/及川 穰氏
島根大学准教授

第4回

黒曜石職人の山、腰岳

- 日時/4月21日(土)
14:00~15:30
- 講師/芝康次郎氏
奈良文化財研究所研究員

各講座とも 定員100名/参加無料

●会場/古代歴史博物館 講義室

関連講座に参加をご希望の方は、
下記の方法でお申込ください。

- お申し込み方法
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先
古代出雲歴史博物館
TEL.0853-53-8600
FAX.0853-53-5350
http://www.izm.ed.jp

ギャラリートーク

- 日時/3月31日(土)
4月28日(土)
5月 5日(土・祝)
各回13:30~14:30
- 会場/古代出雲歴史博物館
特別展示室
- 講師/古代出雲歴史博物館学芸員

参加には年間パスポートまたは
企画展観覧券が必要です。

企画展

古墳は語る 古代出雲誕生

- ◎開催期間／平成30年8月3日(金)～9月24日(月・祝) ■会期中の休館日／8月21日(火)
- ◎開催時間／9:00～18:00 ※8月3日(金)は企画展開会式のため特別展示室のみ10:00開場となります。
- ◎開催場所／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室
- ◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター



▲出雲型子持壺 向山1号墳出土
(松江市教育委員会蔵)
出雲地域の古墳文化を代表する独特の形状をした子持壺。埴輪のように埴丘を飾った土器。



▶金銅装双龍環頭大刀 かわらけ谷横穴墓出土
(重要文化財／島根県教育委員会蔵)
出雲の豪族とヤマトの豪族との密接な関係を示す大刀。2体の龍が玉をくわえたような文様が特徴。

▶金製垂飾付耳飾 立山山8号墳出土
(八女市教育委員会蔵)
朝鮮半島と有明海沿岸地域との交流を示す。1400年以上の年月を感じさせない輝きを放つ。



▲石馬 伝岩戸山古墳出土
(福岡県指定有形文化財／正福寺蔵)
「筑紫君磐井」の墓に比定される古墳に並べられた馬をかたどった石製品。



▶武人埴輪
今城塚古墳出土
(高槻市教育委員会蔵)
大王の葬送儀礼を再現した埴輪群のうちの一つ。大刀を抜こうとする瞬間を捉える。

今から約1500年前の古墳時代後期、出雲にはそれまでにないほど巨大な古墳が作られます。そして出雲型子持壺や石棺式石室など、他の地域にはない独自の古墳文化も生み出されました。この時代はまさに出雲の古墳文化の最盛期と言えます。

そうした古墳文化は日本列島各地の人びととの交流によってはぐまれたと考えられています。有明海沿岸地域に勢威を誇った「筑紫君磐井」に代表される九州北部の豪族たちは、石人・石馬を古墳に並べるといった独特の古墳文化を有していましたが、その影響は山陰地域に及んでいたことが分かっています。

また、近畿地方に強力な「大王」が出現したこの時期には、大王やその近臣豪族と出雲の豪族との間に密接な関係が築かれていたことも、近年の研究で明らかとなってきました。

こうした地域間交流を重ねるうちに、次第にこの地には同じ文化や技術を共有する地域的なまとまり「出雲」が形作られていきました。「古代出雲」はこの時、誕生したのです。

本展覧会では、出雲の地に花開いた出雲ならではの古墳文化を紹介するとともに、現在にまで影響を与える「出雲」という地域がどのようにして生まれたのかについても迫ってみたいと考えています。

平成30年度に当館で開催する予定の展覧会について紹介します。

春季（3月～5月）に開催する展覧会が、企画展「**隠岐の黒曜石**」です。隠岐で採れる良質な黒曜石は、狩猟・採集を生業とする時代において、欠かすことのできない貴重な資源でした。その利用は、列島に人類が登場した旧石器時代に始まり、先史時代を通して途切れることなく使われました。本展では、先史人の残した石器製作の痕跡を辿ることで、隠岐に黒曜石を求めた人々の動きや、その背景にある黒曜石の歴史的・資源的価値に迫ります。

夏季（8月～9月）には、企画展「**古墳は語る—古代出雲誕生**」を開催します。「倭の五王」の時代後の混乱を経て、6世紀頃のヤマトでは諸豪族たちを圧倒する「大王」が君臨し国家の形成が進んでいきました。日本列島各地の豪族たちも、ヤマトとの関係を維持しながらそれぞれの地域をまとめあげていきました。そのころの島根県東部においては、古墳時代最大の古墳がその東西に築造され独特の古墳文化を育むなど、それまでにない新しい地域秩序が形作られていきました。その背景には、ヤマトや九州といった列島各地の豪族たちとの盛んな交流がありました。さらに、現在も続く「出雲」という地域的まとまりが誕生したのもこの頃と考えられています。そこで本展では、6～7世紀における地域色あふれ

る古墳文化について出雲地域を中心に紹介し、現在まで影響を与える「出雲」というまとまりがどのようにして生まれたのかを考えます。

秋季（10月～11月）には、企画展「**神々が集う—神在月と島根の神像彫刻—**」を開催します。旧暦の10月、一般には神無月と呼ばれるこの月を、出雲では神在月と呼びます。このとき全国の神々が出雲に集うとされ、出雲大社をはじめとする数々の神社で神々を迎える神在祭が行われます。本展ではこの時期に合わせ、神在月の関係資料、ならびに、神々の姿を表した島根に遺る様々な神像彫刻を紹介します。

冬季（12月～2月）には、企画展「**隠岐の祭礼と芸能**」を開催します。隠岐では、かつて隠岐に流された後鳥羽院への追悼を目的とした祭礼が行われてきたり、離島ゆえか、中近世の祭礼形態や要素が今もなお窺えたり、また流人が伝えた神賑わいや芸能がいまだに伝承されているなど、隠岐ならではの祭礼と芸能の特色があります。その隠岐の人の営み、とりわけ信仰に根ざした祭礼・民俗芸能にスポットを当てた展覧会です。

それぞれの展覧会は、会期が近づきましたら本誌で詳しく紹介します。30年度もお客様に満足していただける展覧会を開催します。どうぞ、ご期待ください。

古代出雲歴史博物館 展覧会スケジュール 2018(平成30年)

■ 企画展

隠岐の黒曜石

2018年
3月23日(金)～5月16日(水)
※会期中の休館日/4月17日

隠岐産黒曜石 石器群 島根県教育委員会蔵
鳥取県埋蔵文化財センター蔵、岡山理科大学蔵
隠岐の島町教育委員会蔵



■ 企画展

古墳は語る 古代出雲誕生

2018年
8月3日(金)～9月24日(月)
※会期中の休館日/8月21日

重文 かわらけ谷横穴墓
金銅装双龍環頭大刀



■ 企画展

神々が集う —神在月と島根の神像彫刻—

2018年
10月26日(金)～
11月26日(月)
※会期中の休館日/なし

出雲の大社八百万神
どふけあそび



■ 企画展

隠岐の祭礼と芸能

2018年12月21日(金)～
2019年 2月18日(月)
※会期中の休館日/1月15日

水若酢神社祭礼の流鏝馬



体験水田の 稲刈りをしました

古代出雲歴史博物館の体験水田では、毎年、古代米（赤米）を栽培しています。今年は、歴博と連携事業をしている出雲農林高校植物科学科3年生の皆さんのほか、大社保育園の子どもたちにも加わってもらいました。

10月31日、すがすがしい秋晴れの中、高校生はまず刈り取った稲を結ぶための縄を藁から作る“縄ない”をしました。ボランティアスタッフの皆さんが懇切に指導して下さいましたが、現代っ子には少々



稲刈りをする高校生

難しかったようです。稲刈りは、高校生は鎌、保育園児は弥生時代の石包丁に似せた道具で行いました。高校生が刈り取った稲はハデ干しにした後、精米し、今後のイベントで使います。保育園児が刈った稲穂は、来年の田植えに使う種もみとして保管します。

稲刈りの後、高校生と園児は土器で炊いた赤米の試食をしました。古代の味を現代の子どもたちはどのように感じたでしょうか？



赤米の試食

稲の穂摘みをする保育園児

古代出雲歴博 ボランティアスタッフの会 教育優良団体表彰 を受けました

古代出雲歴史博物館は、どなたにも開かれた、親しみのもてる博物館を目指しています。ボランティアの皆さんには、博物館の展示解説や、小中学校の子どもたちが行う体験学習、「れきはくまつり」など各種のイベントでの補助をお願いしており、言わば、博物館と地域の方々とを結ぶ“橋渡し役”です。

NPO法人「古代出雲歴博ボランティアスタッフの会」は、平成19年の開館時に組織されました。今年で結成10周年を迎え、現在91の方が登録されてい



教育長から表彰される理事長

ます。長年にわたり、歴博の様々な活動を陰に日向に支えていただいていた取り組みに対し、島根県教育委員会から教育優良団体として表彰されました。

島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

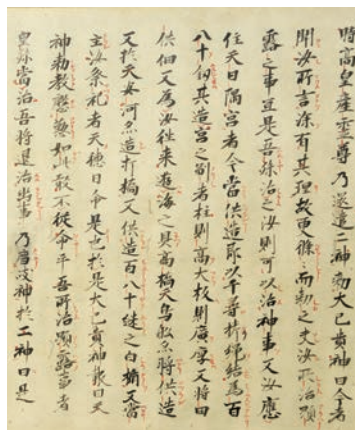
今年度開始のテーマ研究

古代出雲歴史博物館の将来的な企画展内容となるよう、毎年2本のテーマ研究を開始しています。今年度着手したうちの1本を紹介します。

●日本書紀と出雲観に関する研究 (研究期間：平成29～31年度)

奈良時代に完成した『日本書紀』はその後、様々な場面で読み解かれ、注釈が加えられてきました。特に神話に対する解釈は中近世を通じて大きな論点となり、それが後の神道思想や人々の信仰にたいへん大きな影響を与えました。出雲を特別な場所とイメージする地域像も、こうした『日本書紀』の神話解釈に出発点があったのです。

本研究では、中世の神話や近世近代の神道思想・信仰の中で、出雲がどのような地域ととらえられていたのか、その展開と変容の過程を明らかにしていきます。また記紀神話と『出雲国風土記』の神話伝



重要文化財『日本書紀』
熱田本 巻第二神代下
(熱田神宮蔵)

いわゆる国譲りの場面で、「顕露事」を皇孫が治める代わりに、大己貴神が「神事」「幽事」を治めることが語られる。この一節は出雲観を論じる上で最重要視されてきた。

承が出雲地域でどのように受容されていたのか、その実態を探ります。

研究成果の一端は、『日本書紀』編纂1300年の節目となる西暦2020年に、展示や研究論集など、様々な方法で公表することを計画しています。どうかご期待ください。

■主担当者：専門研究員 松尾充晶

第5回古代歴史文化賞の決定

この賞は、島根県をはじめとする古代歴史文化にゆかりの深い奈良、三重、和歌山、宮崎の5県共同で古代歴史文化に関する優れた書籍を表彰するものです。第5回目となる今年は、11月1日に東京帝国ホテルで賞の選定委員会が開かれ、大賞1作品、優秀作品賞4作品が選ばれました。

大賞は、小畑弘己氏の『タネをまく縄文人』(吉川弘文館)が受賞しました。この本は、土器についた植物の種の痕跡である「圧痕」を調べることで、縄文時代には既にアズキやダイズなどの栽培が行われていたことを明らかにし、縄文人は「狩猟・採集民」ではなく「狩猟・栽培民」であったと提唱する作品です。

新しい視点や方法・技術に基づいて

資料を観察することで、歴史研究に新地平を開いた点が高く評価されました。

また、優秀作品賞には、高田貫太氏の『海の向こうから見た倭国』(講談社)・海野聡氏の『古建築を復元する』(吉川弘文館)・松本直樹氏の『神話で読みとく古代日本』(筑摩書房)・吉田一彦氏の『『日本書紀』の呪縛』(集英社)の4作品が選ばれました。



れきはくごよみ

2018年イベントスケジュール

3/10
土

開館11周年記念イベント

「れきはくであそぼ」

◎時間／10:00～15:00

◎場所／古代出雲歴史博物館 講義室

紙芝居

■れきはく10キャラ紙芝居

歴博の見どころを紙芝居で楽しくご紹介。
紙芝居の後はプレゼントの当たるクイズコーナーもあるよ！

スタンプラリー

■みんなでチャレンジ！れきはくスタンプラリー

博物館を巡ってスタンプを集めよう。この日だけの限定デザイン缶バッジがもらえるよ。

迷路

■れきはくちびっ子迷路

段ボール迷路のなかの、雲太くんや出雲ちゃんを探そう！



小さなお子さまも
お楽しみいただけます！
みんなであそぼ～！

工作

■勾玉の首かざりづくり

紙とストローで自分だけのオリジナル首かざりをつくろう！

■れきはくモビールづくり

いろいろな形の飾りをつなげて、自分だけのモビールをつくってね。

6月
初旬

体験水田 古代米の田植え



出雲農林高校との連携事業として、生徒とたいしゃ保育園の園児が一緒になって田植え体験を行います。

10/21
日

秋の体験学

「れきはく秋まつり」



出雲農林高校の移動動物園や太鼓パフォーマンス、農産加工品の販売ショップなど秋にふさわしい体験をたくさんご用意しています。



7/29
日

夏の体験学

「れきはく夏まつり」



子どもから大人まで楽しめる体験メニューを用意して、皆様の参加をお待ちしています。

10月
中旬

体験水田 古代米の稲刈り



6月に植えた古代米を、古代の道具などをつかって刈り取ります。また「はで干し」や古代米の試食なども行います。

※日時や内容は変更になる場合があります。詳しくは内容が決まり次第、ホームページなどでお知らせします。

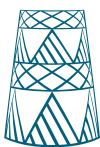
9/23
日

れきはく 観月会



風土記の庭でみんなで
お月見。秋の夜長
を楽しみましょう♪

発行／平成30年2月



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4
TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350
URL : <http://www.izm.ed.jp> E-mail : contact@izm.ed.jp
開館時間 9:00～18:00(11月～2月は、9:00～17:00)



マスコットキャラクター
雲太くん



マスコットキャラクター
出雲ちゃん